

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104026		
法人名	社会医療法人 松涛会		
事業所名	グループホーム ケアタウン山の田		
所在地	〒751-0833 山口県下関市武久町1丁目19番30号 Tel 083-250-7183		
自己評価作成日	令和07年01月31日	評価結果市町受理日	令和07年04月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームケアタウン山の田は、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく一体的に提供されるという地域包括ケアの考えをベースに作られ、山の田内科、リハビリセンター、小規模多機能、コンビニエンスストア、50戸のサービス付き高齢者向け住宅を併設した複合施設の中にあります。家庭的な居心地の良い雰囲気の中で、その人らしく元気に明るく、ゆったりと暮らせる環境づくりを目指しています。開設から13年、地域とのつながりは深まり、協力体制が取れています。管理栄養士による、栄養バランスと行事に配慮した献立、「真空低温調理法」という安全で美味しい食事の提供が、健康的な生活をサポートしています。市街地に位置し、交通の便が良いため、ご家族が頻りに訪れて下さり、ご家族とともに心から寄り添える介護を実現しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和07年03月06日	評価結果確定日	令和07年03月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階には診療所とリハビリセンター、調剤薬局があり、2階にはグループホームと小規模多機能居宅介護事業所、3階から6階にはサービス付き高齢者向け住宅併設の複合施設の一角にある定員9名のアウトホームな雰囲気のグループホームである。常勤看護師を配置し、1階診療所への定期受診、往診、訪問看護、母体医療機関である安岡病院との連携で安心の医療体制が整い、これまで数名の看取りも行っている。「真空低温調理法」による美味しい食事を提供し、季節の行事食や、月に1、2回行うおやつ、一品料理作りは利用者の大きな楽しみである。同建物内で行うオレンジカフェ山の田や書道教室への参加、地域の文化祭、餅つき大会、公園清掃に参加する等、地域との交流も積極的に行っている。働きやすい環境の中、管理者を中心に、介護福祉士の資格を持つ経験の長い職員が一つにまとまり、理念「地域の中でいきいきと、その人らしくゆったりと、楽しく自由にありのままに」の実践に取り組み、家族からの評価も高い「グループホーム ケアタウン山の田」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BLS研修や防災訓練BCP研修に参加することによって、GHの現状を客観的に把握することができ、今後どうすべきか何が必要かを理解し、利用者避難の方法を考えることができた。年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、消火器の位置の確認、消火器の使い方、避難経路の確認を行っている。	年2回、併設施設と合同の避難訓練やBCP研修により、災害時の対応についての知識を身に付けている。夜間想定では9名の利用者を職員1名でどのように動くことがベストであるのか、消防署に確認する予定である。非常時に、人数×3日分の非常食を1階に備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には人生の先輩として尊厳の念を持って接し、敬語で話すようにしている。排泄、入浴の時は個別に対応し、プライバシーの確保を行った。耳が聞こえにくい方へもわかりやすい声かけをしている。指示命令口調ではなく、「～させていただいていいですか?」「～ませんか?」という声かけをするよう心がけている。	常に利用者を敬う気持ちを持って、丁寧に敬語ではなすようにしている。排泄や入浴の場面では個別に対応し、耳で声掛けする等、利用者のプライドや羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。利用者の個人情報の取り扱いや守秘義務については管理者が常に説明し、周知徹底を図っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ「～しましょう」ではなく「～ませんか?」「どうしましょうか?」「どうしたいですか?」等の声かけをするように心がけた。ソファを複数配置し、好きな場所で過ごせるようにしている。ふれあいの日を設け寄り添う時間を増やしたり、日常会話の中で本人が思いを話せるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排泄、就寝などは利用者の希望にできるだけ沿うようにしている。テレビを観たり体操に参加したり部屋で過ごしたりなど、利用者のやりたいことを優先する支援を心がけた。他者との関わりが得意でない方には、無理にレクリエーションに誘うことはせず、本人のペースで過ごせるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで着ている利用者に対しては、自ら選んで着用している服を褒めたり、1日に何度着替えても見守るようにしている。場合によっては利用者と一緒に洋服選びをして楽しむこともある。季節にあった衣類を家族に用意していただいている。毎月の移動美容室で気分をリフレッシュしたり、オシャレを楽しんでいただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食後の食器拭き、テーブル拭き等をしてもらっている。普通食・箸刻み食・刻み食を用意し、できるだけ自身の力で最後まで食べられるよう食器や姿勢、声かけを工夫している。正月や節分などには行事食を提供している。月に1から2回、おやつや一品料理を作っている。	安岡病院のセントラルキッチンから届く食材を1階厨房で調理して提供している。真空低温調理法による美味しい食事は利用者にも好評である。月に1、2回はどら焼きや梅が枝餅等を作るおやつ作りや、稲荷ずしやお好み焼き、豚汁等を作る1品料理作りに取り組み、利用者の力を活かしながら「食」を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月管理栄養士に食事量や体重の増減、BMIなどを確認してもらい、アドバイスを受けている。食事量、水分量は介護記録に記入し、摂取量が少ない時は声かけと必要最小限の介助を行っている。また家族の協力で本人が食べたい物、馴染みの物の差し入れもあり、間食として食べてもらっている。		